

令和3年度 宝塚市病院事業報告書

1 概況

(1) 総括事項

新型コロナウイルス感染症は、従来株であるアルファ株からデルタ株、オミクロン株へと変異し、感染の波の到来とともに感染の規模が拡大しました。罹患者、重症患者及び発熱等の症状がある患者の急激な増加に対応するため、緩和ケア病棟を令和3年(2021年)5月から同年12月の間、また4階西病棟を令和4年(2022年)1月から同年5月の間、それぞれ閉鎖して、罹患者の治療及びPCR検査の検体採取にあたってきました(延べ入院患者数:2,959人(前年度から1,063人増)、PCR検査検体採取数8,792人(前年度から5,266人増))。

病棟の一時閉鎖に加えて、当院の医師、看護師等の医療スタッフやその家族にも罹患者が発生したこと、また、一般病棟に入院中の患者にも罹患者が発生したことから、悪性腫瘍等を患う重篤な患者の診療体制を確保しつつ、不急の手術や新規入院の受入を延期し、また、救急患者の受入を制限せざるを得ない状況が続きました。

入院部門は、医療現場と事務部門が連携して取り組んだクリニカルパスの見直し等の成果により、DPC入院期間I・II期(全国平均入院日数以内)の入院期間率が向上し、入院単価は前年度に続いて改善しましたが、患者数の減少が大きく影響して、入院収益は241,631千円減少しました。外来部門は、地域の医療機関との連携強化により患者数が増加するとともに、平均単価も上昇したことで収益は343,305千円増加しました。重点施策であるがん医療では、入院制限の影響により延べ入院患者数は2,387人(前年度2,656人)に減少したものの、放射線治療実患者数は41人増加して304人となりました。

医業外の収益では、新型コロナウイルス感染症入院患者の病床確保や患者受入(重症患者を含む)、治療に必要な機器整備等に対して、国、県及び市から1,187,388千円の補助金を収入したことから、経常利益は376,199千円(前年度は400,485千円の経常損失)、純利益は366,610千円(前年度160,065千円)と大幅に改善しました。

総務省から令和2年度に示される予定であった公立病院の中長期経営計画策定に係るガイドラインは、新型コロナウイルス感染症のまん延により延期されていましたが、「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」(令和4年(2022年)3月29日)として示されました。

本ガイドラインを踏まえて、当院の中長期経営計画に位置付ける(仮称)宝塚市立病院経営強化プラン(計画期間:策定年度又はその次年度から令和9年度(2027年度))

まで)を策定し、経営改善はもとより人口減少と高齢社会に対応する当院の在り方を含めた検討を進めてまいります。

(2) 経営指標に関する事項

医業費用、医業外費用に対する医業収益、医業外収益の割合を示し、病院活動による収益状況を示す経常収支比率は、健全経営の目安とされる100を下回っていましたが、新型コロナウイルス感染症関連の補助金を収入したことで103.0に改善しました。

病院の本業である医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す医業収支比率は89.4、同じく医業費用に対する他会計負担金を除く医業収益の割合を示す修正医業収支比率は85.7と若干改善しました。

また、年延病床数に対する年延入院患者数の割合を表し、病院の施設が有効に活用されているかを示す病床使用率は、長引く新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため低調でした。

(単位：%)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
経常収支比率 ※1	98.5	95.0	96.4	96.8	103.0
医業収支比率 ※2	93.9	90.4	92.2	88.1	89.4
修正医業収支比率 ※3	89.2	85.9	88.7	84.6	85.7
病床使用率(対許可病床) ※4	78.6	74.1	78.0	68.0	60.4
病床使用率(対稼働病床) ※4	87.9	83.1	87.4	76.2	67.7

※1 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$

※2 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$

※3 修正医業収支比率 $(\text{医業収益} - \text{他会計負担金}) \div \text{医業費用} \times 100$

※4 病床使用率 $\text{年延入院患者数} \div \text{年延病床数} \times 100$

(利 用 状 況)

入院患者数は延べ96,136人(一日当たり263.4人)で、前年度比較では12,129人の減、外来患者数は延べ215,425人(一日当たり882.9人)で、前年度比較では14,638人の増となりました。

病床稼働率は、許可病床数(436床)での稼働率は60.4%でしたが、休床中の病床分を差し引いた稼働病床(389床)をベースとした稼働率は前年度比8.5ポイント減少して67.7%となりました。

(経 営 状 況)

収益については、入院患者1人1日当たりの診療収入が64,417円、対前年度比108.4%、外来患者1人1日当たりの診療収入は18,550円で、対前年度比で102.0%となりました。

入院部門では、延べ入院患者数が対前年度比88.8%、入院収益は6,192,791千円、対前年度比96.2%となりました。外来部門では、延べ外来患者数は対前年度比107.3%、外来収益は3,996,133千円、対前年度比109.4%となりました。その他の医業収益を加えた医業収益は、対前年度比101.0%の10,763,998千円となりました。

費用については、前年度比で給与費98.1%、材料費100.8%、経費100.8%、減価償却費103.6%となり、医業費用は、対前年度比99.6%の12,037,254千円となりました。

医業収益、医業外収益（新型コロナウイルス感染症対策事業等の国縣市補助金1,187,388千円を含む）から医業費用、医業外費用を差し引いた経常利益は、昨年度の400,485千円の経常損失から776,684千円増加して376,199千円の経常利益となりました。経常利益から特別利益及び特別損失を加えた当年度純利益は366,610千円となりました。

令和3年度宝塚市病院事業会計決算の概要

1. 業務量

区分	令和3年度	令和2年度	増減	前年比 (%)	
許可病床数	436床	436床	0床	100.0	
稼働病床数	389床	389床	0床	100.0	
入	延患者数	96,136人	108,265人	△ 12,129人	88.8
	1日患者数	263.4人	296.6人	△ 33.2人	88.8
	許可病床利用率	60.4%	68.0%	△ 7.6p	—
	稼働病床利用率	67.7%	76.2%	△ 8.5p	—
院	1人1日診療収入	64,417円	59,432円	4,985円	108.4
外	延患者数	215,425人	200,787人	14,638人	107.3
	1日患者数	882.9人	816.2人	66.7人	108.2
来	1人1日診療収入	18,550円	18,193円	357円	102.0

2. 収益的収入及び支出（損益計算書／税抜）

（単位 千円）

区分	令和3年度	令和2年度	増減	前年比 (%)	
収入	医業収益	10,763,998	10,654,441	109,557	101.0
	（入院収益）	(6,192,791)	(6,434,421)	(△ 241,630)	(96.2)
	（外来収益）	(3,996,133)	(3,652,827)	(343,306)	(109.4)
	（他会計負担金）	(450,762)	(422,411)	(28,351)	(106.7)
	（その他）	(124,312)	(144,782)	(△ 20,470)	(85.9)
	医業外収益	2,181,746	1,588,885	592,861	137.3
	（他会計補助金）	(364,361)	(331,601)	(32,760)	(109.9)
	（他会計負担金）	(225,477)	(248,442)	(△ 22,965)	(90.8)
	（長期前受金戻入）	(32,878)	(22,635)	(10,243)	(145.3)
	（資本費繰入収益）	(423,719)	(380,979)	(42,740)	(111.2)
	（その他）	(1,135,311)	(605,228)	(530,083)	(187.6)
	特別利益	5,000	798,935	△ 793,935	0.6
	（固定資産売却益）	(2,060)	(0)	(2,060)	皆増
	（過年度損益修正益）	(2,940)	(2,287)	(653)	(128.6)
（他会計補助金）	(0)	(570,000)	(△570,000)	皆減	
（その他特別利益）	(0)	(226,648)	(△226,648)	皆減	
収益合計	12,950,744	13,042,261	△ 91,517	99.3	
支出	医業費用	12,037,254	12,091,543	△ 54,289	99.6
	（給与費）	(6,556,316)	(6,679,914)	(△ 123,598)	(98.1)
	（材料費）	(2,678,014)	(2,655,983)	(22,031)	(100.8)
	（経費）	(2,011,012)	(1,994,400)	(16,612)	(100.8)
	（減価償却費）	(749,391)	(723,320)	(26,071)	(103.6)
	（その他）	(42,521)	(37,926)	(4,595)	(112.1)
	医業外費用	532,292	552,269	△ 19,977	96.4
	特別損失	14,588	238,385	△ 223,797	6.1
	（固定資産売却損）	(8,280)	(0)	(8,280)	皆増
	（固定資産除却損）	(731)	(0)	(731)	皆増
	（過年度損益修正損）	(5,577)	(11,737)	(△ 6,160)	(47.5)
	（その他特別損失）	(0)	(226,648)	(△ 226,648)	皆減
	費用合計	12,584,134	12,882,197	△ 298,063	97.7
	当年度純利益（△は純損失）	366,610	160,064	206,546	229.0
繰越未処分利益剰余金	366,914	206,850			
その他未処分利益剰余金変動額	0	0			
未処分利益剰余金	733,524	366,914			
利益処分（案）	0	0			

3. 資本的收入及び支出 (税込) (単位 千円)

区 分	令和3年度	令和2年度	増減	前年比 (%)	
収 入	企 業 債	700,900	491,200	209,700	142.7
	他会計負担金	35,787	45,019	△ 9,232	79.5
	寄附金	0	35,795	△ 35,795	皆減
	投資返還金	917,429	78,769	838,660	1,164.7
	他会計借入金	300,000	550,000	△ 250,000	(54.5)
	補助金	121,967	39,317	82,650	(310.2)
	固定資産売却代金	3,861	0	3,861	皆増
	収 入 合 計	2,079,944	1,240,100	839,844	167.7
支 出	建設改良費	846,129	595,723	250,406	142.0
	企業債償還金	834,533	764,251	70,282	109.2
	他会計借入金償還金	300,000	550,000	△ 250,000	54.5
	支 出 合 計	1,980,662	1,909,974	70,688	103.7
資本的収支不足額	△ 99,282	669,874	769,156	-14.8	
補填 財源	損益勘定留保資金	0	668,595		
	消費税資本的収支調整額	0	1,279		

4. 資金不足額・資金不足比率の状況 (単位 千円)

	令和3年度	令和2年度	増減	前年比 (%)
A 流動負債	3,317,171	3,994,526	△677,355	83.0
B 控除地方債残高	1,005,269	834,533	170,736	120.5
C 流動資産	2,221,200	2,254,720	△33,520	98.5
D 算入地方債	25,933	27,900	△1,967	92.9
E 解消可能資金不足額	27,900	27,900	0	100.0
F 資金不足額 (=A-B-C+D-E)	88,735	905,273	△816,538	9.8
G 事業規模 (医業収益合計)	10,763,998	10,654,441	109,557	101.0
H 資金不足比率 (=F÷G×100)	0.8%	8.4%	△ 7.6p	9.5

5. 繰入金内訳 (単位 千円)

区 分	令和3年度	令和2年度	増減	前年比 (%)	
収 益 的 収 入	1,467,503	1,955,762	△488,259	75.0	
	基準内繰入金	1,385,838	1,345,121	40,717	103.0
	基準外繰入金	81,665	610,641	△528,976	13.4
資 本 的 収 入	36,967	46,253	△9,286	79.9	
	基準内繰入金	35,787	45,019	△9,232	79.5
	基準外繰入金	1,180	1,234	△54	95.6
繰入金合計	1,504,470	2,002,015	△497,545	75.1	

6. 企業債の概況 (単位 千円)

借入先	令和3年度当初 未償還額	令和3年度増減額		令和3年度末 未償還額
		発行額	償還額	
財務省財政融資資金	4,006,043	190,100	638,546	3,557,597
地方公共団体金融機構	2,660,464	79,700	195,987	2,544,177
(株)京都銀行	0	431,100	0	431,100
合 計	6,666,507	700,900	834,533	6,532,874